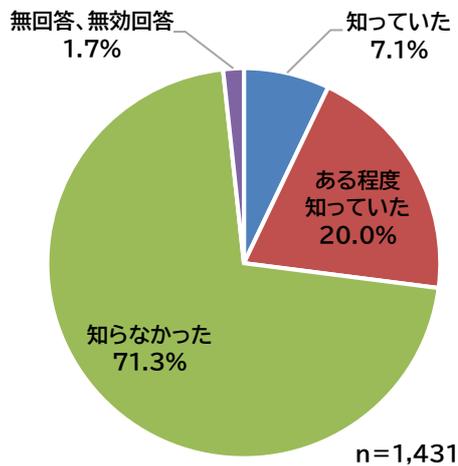


(3) 水道事業の現状と課題

問9 人口減少及び節水機器の普及などにより水需要は減少しており、水道料金収入が減少傾向となっていることをご存じでしたか？(○は1つだけ)

【単純集計】

項目	人数	割合
1. 知っていた	101人	7.1%
2. ある程度知っていた	286人	20.0%
3. 知らなかった	1,020人	71.3%
無回答、無効回答	24人	1.7%
計	1,431人	100.1%



問9の問いに対し、「知らなかった」の割合が71.3%で最も多くなっており、多くの利用者の方は、水道事業の現状(水道料金収入が減少傾向となっていること)について、認知されていない状況にあります。

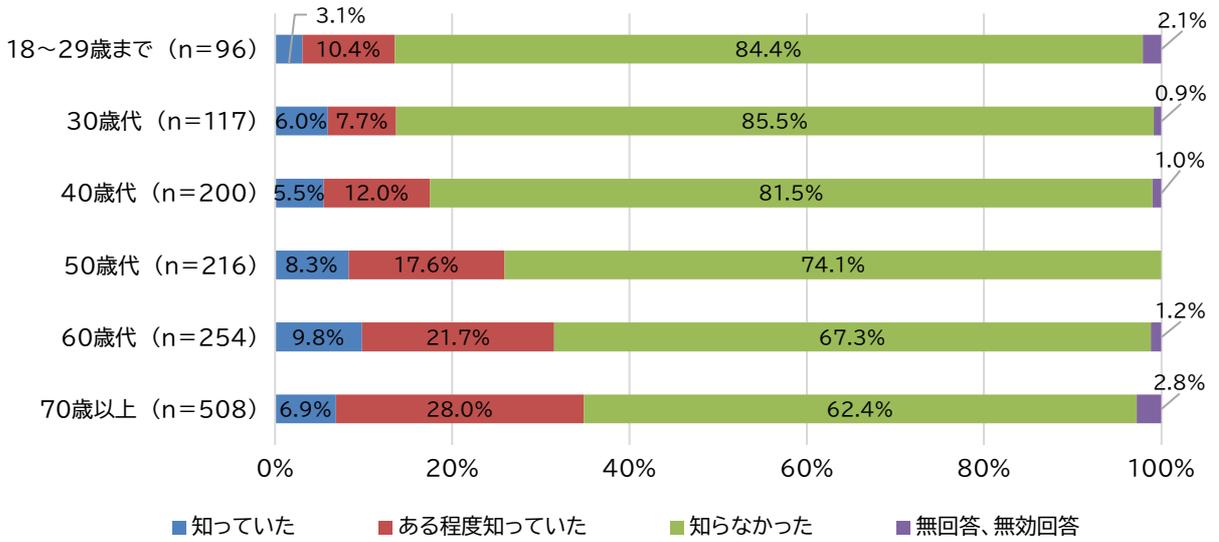
【属性別集計】

①.性別による比較（水道事業の現状に対する認知度）



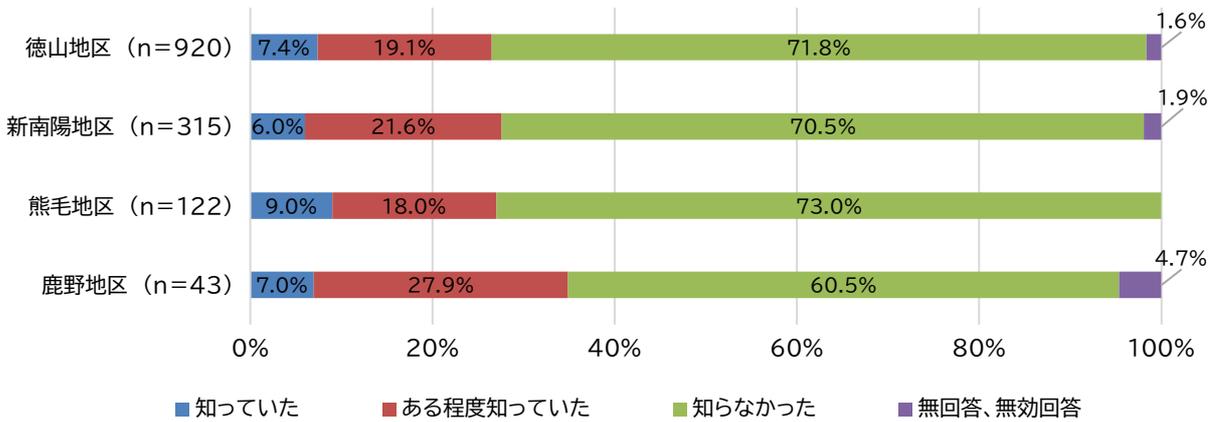
性別による比較では、男女共に「知らなかった」の割合が最も多く、**男性**に比べ**女性**の方の認知度が低くなっています。

②.年齢別による比較（水道事業の現状に対する認知度）



年齢別による比較では、年齢層が上がるほど認知度は高くなる傾向はみられますが、全ての年齢層で「知らなかった」の割合が過半数を占めています。
特に40歳代以下については、8割以上の方が「知らなかった」を選択されています。

③.旧行政区域別による比較（水道事業の現状に対する認知度）

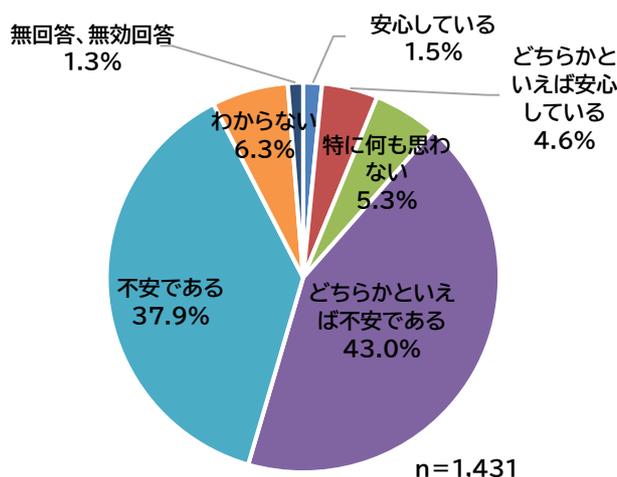


旧行政区域別による比較では、全ての地域で「知らなかった」の割合が過半数を占めています。

問10 本市では、昭和40年～50年頃にかけて市街地を中心に大規模な建設整備を行っているため、40年以上経過する老朽化施設が多数存在します。このように十分に耐震対策が施されていない水道施設があることについて、どのように思われますか？(○は1つだけ)

【単純集計】

項目	人数	割合
1. 安心している	22人	1.5%
2. どちらかといえば安心している	66人	4.6%
3. 特に何も思わない	76人	5.3%
4. どちらかといえば不安である	616人	43.0%
5. 不安である	543人	37.9%
6. わからない	90人	6.3%
無回答、無効回答	18人	1.3%
計	1,431人	99.9%

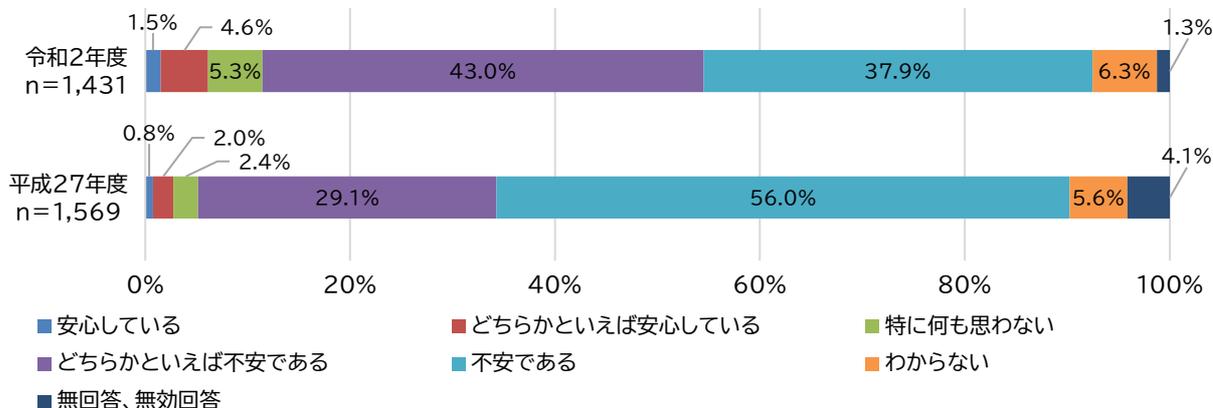


問10の問いに対し、「どちらかといえば不安である」の割合が43.0%で最も多くなっています。

「どちらかといえば不安である」、「不安である」をあわせた割合は、全体の80.9%を占めており、老朽化施設が多数存在することに対し、多くの方が「不安」を感じています。

【経年比較】

(老朽化施設に対する感じ方の経年比較)

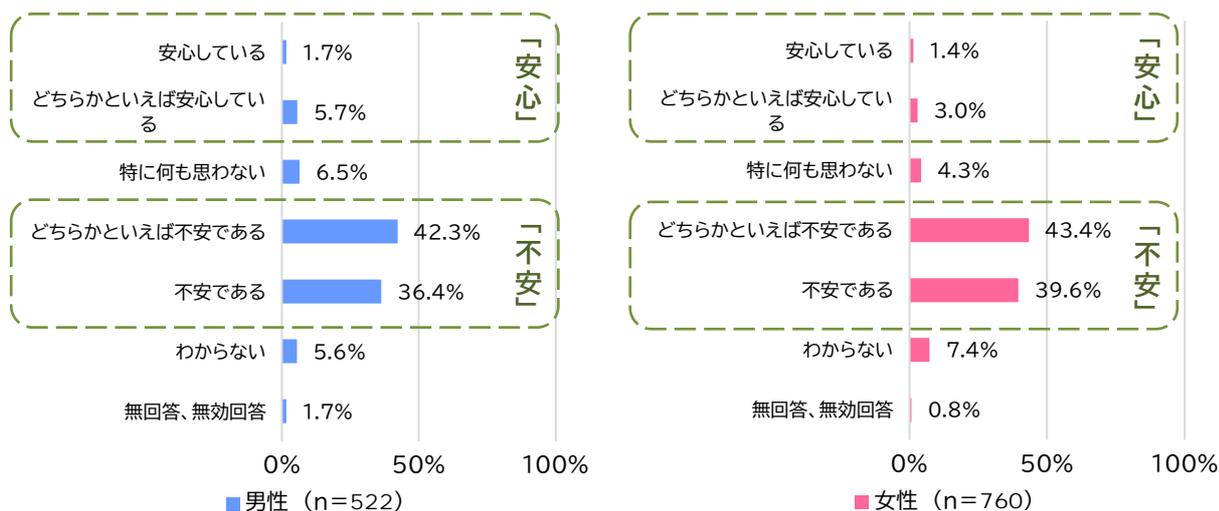


※平成27年度と令和2年度とで回答項目の記載内容が異なるため、グラフ中は、今回(令和2年度)の記載内容に合わせた表記としています。

前回の調査と比較して、「安心している」、「どちらかといえば安心している」の割合は増加しており、「どちらかといえば不安である」、「不安である」をあわせた割合は減少しています。

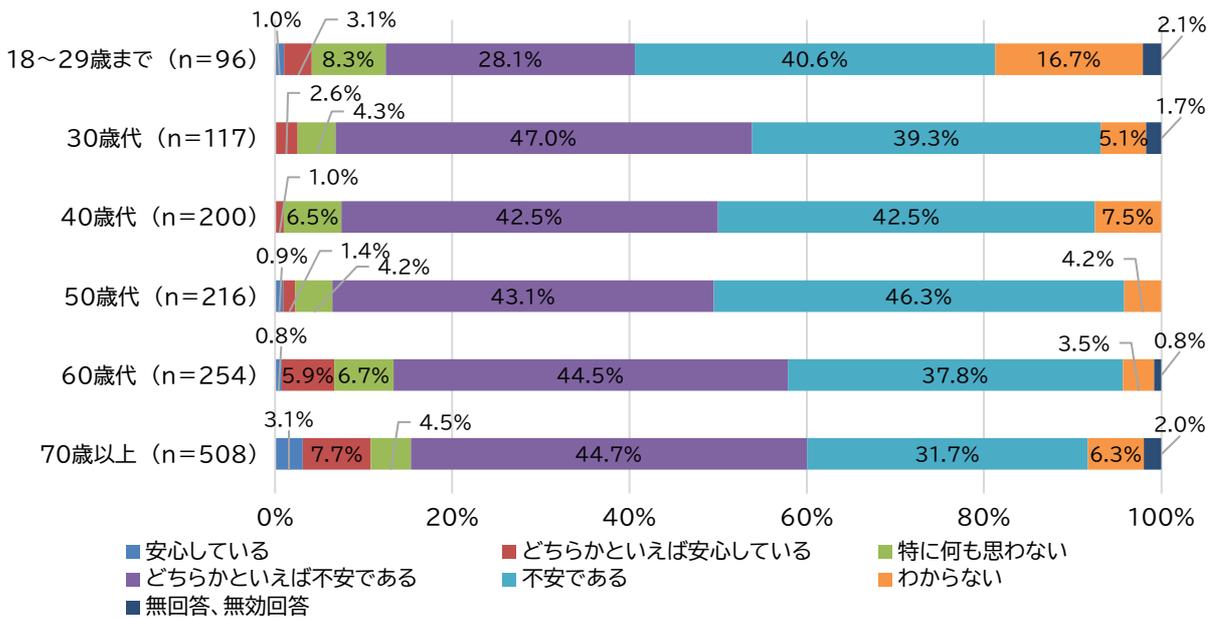
【属性別集計】

①.性別による比較 (老朽化施設に対する感じ方)



性別による比較では、男女共に類似した傾向となっており、「不安」と感じている方の割合が多くなっています。

②.年齢別による比較（老朽化施設に対する感じ方）

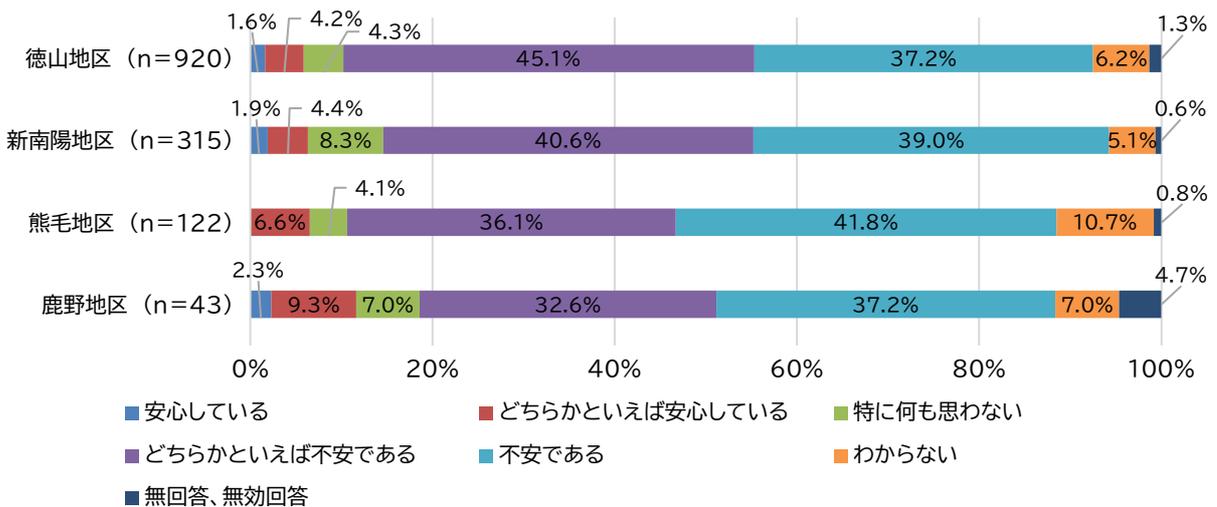


年齢別による比較では、全ての年齢層で「どちらかといえば不安である」、「不安である」の割合が多くなっています。

また、概ね年齢層が上がるほど「安心している」、「どちらかといえば安心している」の選択率は高くなっています。

※前回の調査と同様の傾向となっています。

③.旧行政区域別による比較（老朽化施設に対する感じ方）

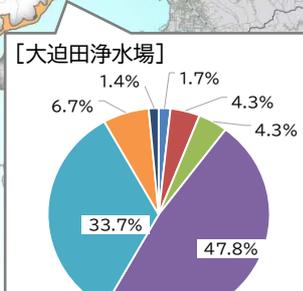
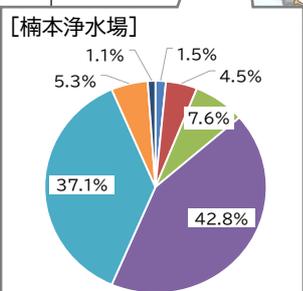
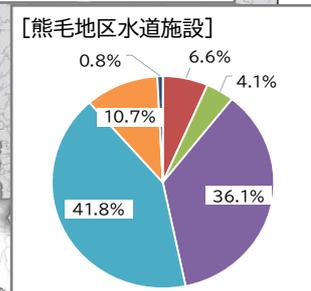
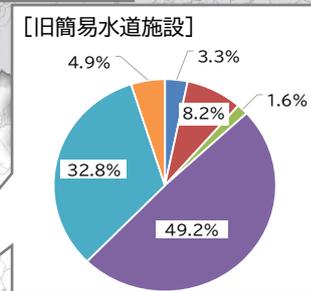
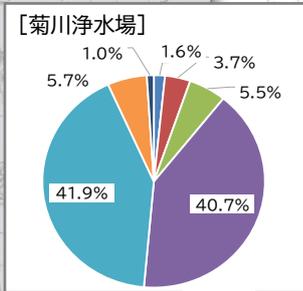
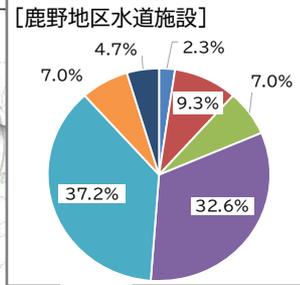


旧行政区域別による比較では、全ての地域で「どちらかといえば不安である」、「不安である」の割合が多くなっています。

【施設別集計（老朽化施設に対する感じ方）】

施設区分	小学校区
大迫田浄水場	遠石・周陽・秋月・桜木・久米・櫛浜・鼓南・大津島
菊川浄水場	徳山・今宿・岐山・菊川・富田東
楠本浄水場	夜市・戸田・湯野・富田西・福川・福川南
旧簡易水道施設	須磨・沼城・和田
熊毛地区水道施設	三丘・高水・大河内・勝間
鹿野地区水道施設	鹿野

水道施設の給水範囲



- 安心している
- どちらかといえば安心している
- 特に何も思わない
- どちらかといえば不安である
- 不安である
- わからない
- 無回答、無効回答

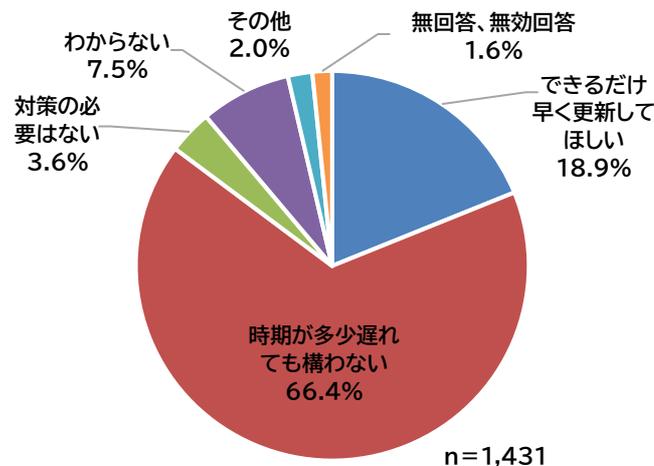
施設別による比較では、全ての施設で「不安」と感じている割合は多くなっていますが、沿岸部の施設に比べ山間部に位置する「旧簡易水道施設」、「鹿野地区水道施設」の方が「安心している」、「どちらかといえば安心している」の選択率が高くなっています。

問11 老朽施設の更新や耐震化に取り組むには多額の費用が必要となります。本市では、水道料金への影響がでないように、工事費の平準化などを行い、耐震対策に取り組んでおりますが、未だ整備されていない施設が多数あるのが現状です。
 今後、施設の更新や耐震化に対してどのように取り組んで行くべきと思われますか？
 (〇は1つだけ)

【単純集計】

項目	人数	割合
1. 水道料金の負担が多少増えても、万全な安定給水体制を確保するために、できるだけ早く更新してほしい	270人	18.9%
2. 更新はするべきではあるが、最低限の安定給水体制を確保し、たうえで、水道料金への影響をできるだけ抑えるように、時期が多少遅れても構わない	950人	66.4%
3. 水道料金が少しでも増えるなら、対策の必要はない	52人	3.6%
4. わからない	107人	7.5%
5. その他	29人	2.0%
無回答、無効回答	23人	1.6%
計	1,431人	100.0%

※ 以下文中において、1. 及び 2.の回答項目をあわせたものを「更新はするべき」と表記します。



※回答項目を一部省略した形で表記しています (以下のグラフ中同様)

問11の問いに対し、「更新はするべきではあるが、最低限の安定給水体制を確保したうえで、水道料金への影響をできるだけ抑えるように、時期が多少遅れても構わない」の割合が66.4%で最も多くなっています。

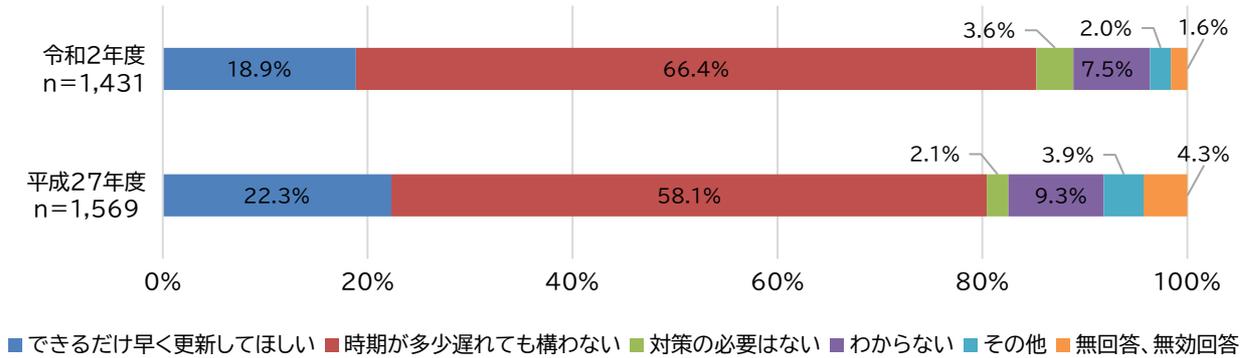
今後、施設の更新、耐震化を行うことに対し、全体の85.3%が「更新はするべき」を選択されています。

「その他」の記述内容は以下のとおりです。

- 料金の負担を最小限にし、更新施設の優先順位を議論し取り組んで行くべき
- 水道局事業は市の取り組みのため安易に水道料金の値上げのみの対策ではなく市の運営費、予算を組むべきでは など 29件の回答がありました。

【経年比較】

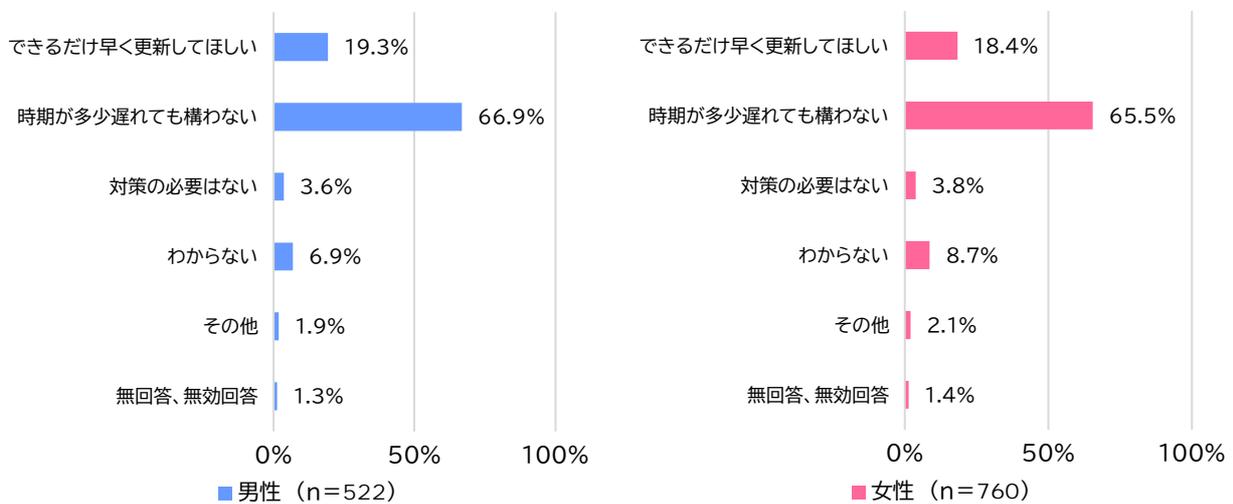
(更新、耐震化に対する考え方の経年比較)



前回の調査と比較して、「更新はするべきではあるが、最低限の安定給水体制を確保したうえで、水道料金への影響をできるだけ抑えるように、時期が多少遅れても構わない」を選択される方の割合が増加しています。

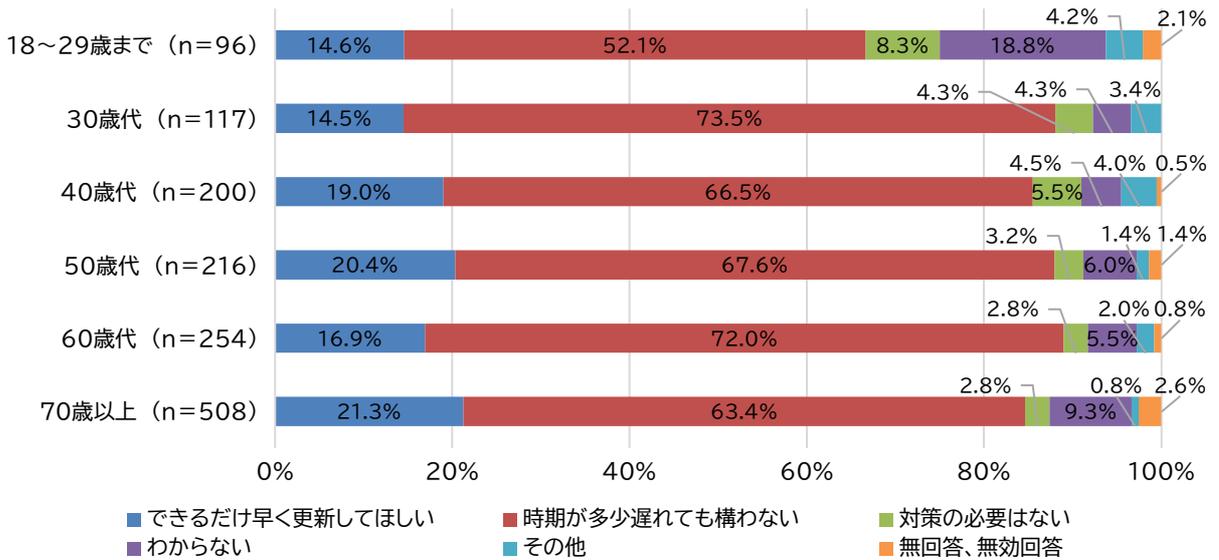
【属性別集計】

①.性別による比較 (更新、耐震化に対する考え方)



性別による比較では、男女共に「更新はするべきではあるが、最低限の安定給水体制を確保したうえで、水道料金への影響をできるだけ抑えるように、時期が多少遅れても構わない」の割合が最も多くなっています。

②.年齢別による比較（更新、耐震化に対する考え方）

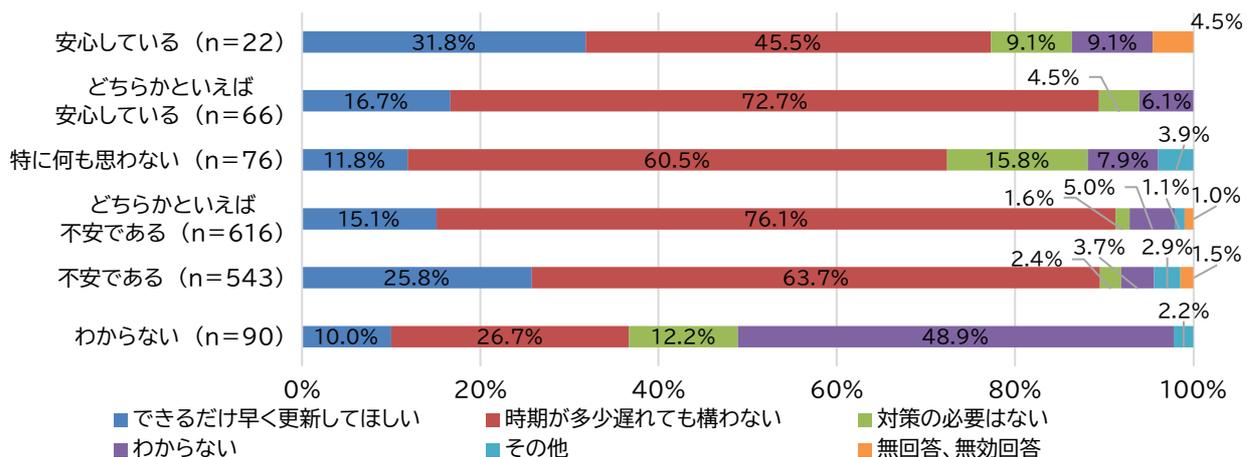


年齢別による比較では、全ての年齢層で「更新はするべきではあるが、最低限の安定給水体制を確保したうえで、水道料金への影響をできるだけ抑えるように、時期が多少遅れても構わない」の選択率が高くなっています。

また、「水道料金の負担が多少増えても、万全な安定給水体制を確保するために、できるだけ早く更新してほしい」については、概ね年齢層が上がるほど割合が高くなる傾向がみられます。

【その他の集計】

①.老朽化施設に対する感じ方による違い(問10とのクロス集計)



老朽化施設に対する感じ方にかかわらず、「更新はするべきではあるが、最低限の安定給水体制を確保したうえで、水道料金への影響をできるだけ抑えるように、時期が多少遅れても構わない」の選択率が高くなっています。

【施設別集計（更新、耐震化に対する考え方）】

